



Tottori Center for Climate Change Actions

TCCCA ニュースレター

Vol.18

6月21日に開催したとっとりエコサポーターズ養成講座に、損害保険ジャパン日本興亜株式会社CSR部上席顧問である関 正雄(せき まさお)氏を、鳥取県で初となる地球温暖化適応策についての講演「気候変動の時代～災害リスクに強い地域・企業とは」の講師としてお招きしました。関氏には、気候変動により頻発

する自然災害のリスクに対してレジリエント(強靱)な社会に必要な条件について考える機会を提供していただきました。要旨をお伝えします。



損害保険ジャパン日本興亜株式会社
CSR(※1)部上席顧問
明治大学 経営学部特任准教授

関 正雄氏

※1 Corporate Social Responsibility の略。
企業の社会的責任のこと。

あなたの地域・企業は 気候変動に適応していますか？

頻発する自然災害により経済損失額が増加



ハリケーン サンディ (2012年10月)
経済損失は約4兆円移



ドイツの暴風低気圧ニコラス (2015年3月)
ミュンヘン市内で1,500本倒木最大瞬間風速53m



世界の自然災害による経済損失と保険損害の推移

今日、記録的な自然災害が多発している。観測結果により今後、地球温暖化が進むことで、発生確率や規模の拡大に大きな影響を及ぼす。昨年8月の広島土砂災害(死者77人、全壊132軒、床上浸水

1301軒)は、特別ではなく、今やどこでも起こり得る。大規模な自然災害が起これば経済損失とそれに伴う保険支払い生まれるが、その額はこのように年々増加の一途をたどっている。

災害のリスクに適応し、被害を最小に抑える被害からの立ち直りも早いレジリエントな社会へ

長野におけるケーススタディ

～SH分析結果(気候変動に係る利害関係)～

	気候変動への関心	気候変動のマイナスの影響				気候変動のプラスの効果	適応策の導入	品種
		被害虫	日焼け/色のり	鳥獣被害	凍害			
行政	△	○	○	○	—	○	—	—
生産者	○	△	○	○	—	△	○	○
栽培技術員	○	○	○	○	○	△	○	○
流通	○	○	○	—	○	—	○	○
消費者	○	—	○	—	○	△	△	○
農産資材	×	○	—	—	—	△	×	—

○ 関心あり △ 少し関心あり × 関心なし — コメントなし

※「コメントなし」はリアルタイムに観測する意見がなかったことを意味し、必ずしも「—」の数字があるアンケートデータがその分野に関心がないという意味ではない。

地域や企業が社会のレジリエンス(強靱性、しなやかな強さ)に共通認識を持つべき。脆弱(ぜいじゃく)性とは「外圧の大きさ」

「適応能力」「感受性」の3要素で決まる。適応能力を高めることによって、被害を抑えることができる。適応能力については人為的に高めることが可能である。災害リスクに強い(脆弱でない)地域・企業とは、そのエリアに適した温暖化の適応策を講じている組織のことを指す。

たとえば長野県では、ステークホルダー(※2)会議に取り組んでいる。

(※2)利害関係者

これは、環境適応策を効果的に計画・実施するために、多くの関係者間で協働で認識共有を進めるものである。計画策定の際に、専門家が持つ知識を地元企業や民間団体、農業団体などに提供する。また、ステークホルダーが持つ現場での知識を専門家に伝える。このコミュニケーションを繰り返すことで実現可能で具体的な適応策を持つ強い地域となる。

このようにまずは行政や市民、企業が丸となって適応策を練り上げ、災害に強い社会をつくってほしい。

鳥取県地球温暖化防止活動推進センターは、県内の温暖化防止活動を様々な面からサポートし、一層活性化させることで低炭素社会をめざすことを目的に活動するセンターです。鳥取環境大学の教員や学生、市民によるNPO法人が運営しています。2010年6月に鳥取県知事より指定され、鳥取環境大学との連携協定のもと、鳥取環境大学に拠点を置き、活動を始めました。鳥取県地球温暖化防止活動推進センターの活動は、国や県、県内外の様々な団体や個人の会員の皆様などのご支援によって支えられています。



第6期

2015年

とっとりエコサポーターズ 養成講座(必修講座)

6月21日に行われたエコサポーターズ養成講座の様子をお伝えします！
新規と現役のエコサポーターズの皆さんで、活気あふれる会になりました！

午前の部 基調講演

気候変動の時代

～災害リスクに強い地域・企業とは～

損害保険ジャパン日本興亜株式会社
CSR部 上席顧問
明治大学 経営学部特任准教授
関 正雄 氏



表紙で紹介した、関氏の講演を聴講しました。気候変動が進み自然災害リスクが高まる中、自分たちはどのように適応すべきか、みなさんが真剣に耳を傾けました。

参加者の方々からは、地球温暖化対策として防止活動である「緩和」だけではなく、「適応」との両立が大切だということが印象深かったという声寄せられました。

とっとりエコサポーターズ 養成講座

今年度は、第1日目を必修講座(基礎的内容)として開催しました。第2日目は選択制(実践的内容)で3つの会場から1つ以上を受講していただき、修了した方が委嘱の対象となります。



質疑&応答



西村 孝一さん

Q. 私たちはどんな災害損害保険の見直しをするべきでしょうか？

A. どこまで補償されるのか確認してください。場合によっては総合型の保険や地震保険への加入も検討してみてください。



関氏

ワークショップ つながるエコクイズ



三人集まれば文殊の知恵！
グループメンバーのヒントで
クイズと正解に近づきます。

数人のグループになって、つながるエコクイズに取り組みました！
このクイズはすべての問題に正解しなければゴールできないので、間違えないように意見を出し合いながら取り組みました！



Pick Up!!

いろんな世代の方とコミュニケーションをとりながら、楽しく学ぶことができよかったです。今後の活動に生かせる良い手法だと思いました！



三浦 彩香さん



地球温暖化の基礎知識と最新情報

2100年には気温が4.8℃も上昇する!?



一般財団法人
地球温暖化防止ネット
川原 博満 氏

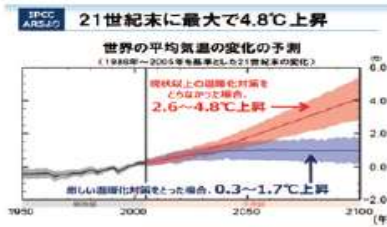
IPCC(気候変動に関する政府間パネル)の最新の報告書によると、2100年には世界平均気温が最大で4.8℃上昇すると予測された。また国際社会では、2100年までの気温上昇を2℃以内に抑えるという目標を立てているが、2050年の段階で到達する可能性が高いとされている。

解決策としては緩和策(減らす)と適応策(備える)の2種類がある。

緩和策では、温室効果ガスを減らすという解決策が挙げられ、再生可能エネルギーの導入や省エネ活動などで実践することができる。

適応策としては、地球温暖化による影響に備えることが挙げ

げられ、熱中症の対策などをしっかりと行ったり、極端な豪雨やサイクロンなどが発生した場合の防災準備することが挙げられる。



Key Point

対策を行うか否かで、温度上昇量は大きく変わる。その差が顕著になり始めるのは2050年ごろからである。

Q&A



高橋 美佐紀 さん

Q. 温暖化対策推進の障害としては何が挙げられるでしょう?

A. 関心が薄く、危機感が共有されていないことです。また、環境問題の現状を広める伝道師のような役も必要です。



川原 氏



Pick Up!!

世界の平均気温がこんなに上がってしまうことに驚きました。今日学んだことを、友人をはじめ、たくさんの人に広めなければいけないと感じました。



三好 正隆 さん

参加型パネルディスカッション

Q.温暖化防止活動を誰と一緒にいきますか?

全員参加型のパネルディスカッションを行いました。新規受講の方々の振り返りを紹介します!



松浦 生 さん

A. まずは誘いやすい友人を巻き込んで、そこからどんどん輪を広げていきたいです!

A. 妻と孫です。家族と一緒に取り組みたいと思いますし、なにより孫のためにもよい環境を残してあげなければなりません!



西垣 勝芳 さん



参加者の方々も、今回の養成講座を受講して、それぞれ伝えたい人や思いがあり、実に有意義なものになりました。

読んでいただいている皆さん、今回のニュースレターの内容を誰に何を伝えたいと思いましたか?温暖化対策の新しい一歩目として、周りの方を巻き込んで行動してみてくださいはいかがでしょうか?

H27
8/30

第一回とっとり エコサポーターズ総会

8月30日に行われたエコサポーターズ
総会についてレポートします！

まずは、新しく就任された鳥取県環境立県推進課太田裕司課長に、開会の挨拶として、
国の施策を踏まえた県の新しいイニシアティブプランなどをお話いただきました。



鳥取県環境立県推進課
太田 裕司 課長

ミニセミナー

公立鳥取環境大学の関口浩太さんより、県の環境行政の現状を紹介してもらいました。県内の電力自給率が上がっていることやその要因であるバイオマス発電施設の増加状況などについて説明を受け、施策の効果等の理解を深めました。



公立鳥取環境大学
関口 浩太 さん



参加型 ディスカッション

エコサポーターズの方々がどんな温暖化対策を行っていたのか、また今年度はどのような活動をするのかを紹介し合いました。共通して取り組んでいることや、参考にしたい意見が飛び交う場になりました。どんな活動があったのか、一部紹介します。

昨年度の活動について

- 家庭での取り組み
 - ・不要な照明は消す
 - ・テレビを必要意外消す
 - ・冷蔵庫の扉開を減らす
 - ・LED化
 - ・エアコンの使い方
 - ・新しい冷蔵庫の購入
- エコドライブの実施
 - ・燃費向上
 - ・省エネ運転
- 中小企業での省エネ
- 自転車の利用
- 生ごみの削減
- 研修会への参加
- 再生可能エネルギーの導入
 - ・薪ストーブ
 - ・太陽熱、太陽光
- 食べ物の地産地消
- 子どもへの環境教育
 - ・公民館や地域で活動
- 建物の省エネ
- リフューズ
 - ・不要なものは買わない など



Pick Up!! 寺本 有希 さん

排出ガス削減のためエコドライブを心がけました。現在の燃費効率をチェックしながら運転する方もいらっしやいました。

Pick Up!!

地域の子どももエコクラブを支援しています。「子ども環境白書」なども活用しました。



福島 庸二 さん

今年度の活動について

- 家庭での取り組み
 - ・家庭の省エネコンクール
 - ・昔の遊びを復活
 - ・窓からの日差しを和らげる
 - ・エコライフの大切さを伝える
 - ・不要な照明を消す
 - ・コンポストの活用（生ごみを出さない）
 - ・家庭の排出ごみを減らす
- エコドライブの実施
 - ・アイドリングストップ
- 活動を広げる
 - ・エコのアイデアなどを語る集い
 - ・まわりに同じ思いを持つ人の仲間を作り力を合わせたい（地域への活動に）
 - ・西日本を中心に省エネを広めたい
 - ・公民館、小学校などでエコ意識を深める活動
- その他
 - ・これまでの活動を継続
 - ・太陽光→水素の手作り→燃料電池→水素社会
 - ・インターネットを活用したエコPR
 - ・事業所でのエコ活動
 - ・職場のエコの推進
 - ・二酸化炭素量の確認
 - ・環境の変化に注目 など



Pick Up!! 熊谷 春美 さん

温暖化の影響を受け、紅葉の開始時期が変わったのかを調査します！

今後も、皆さんの思いを一緒に広め、
低炭素社会づくりを進めましょう！

鳥取県地球温暖化防止活動推進センター通信(季刊) 「TCCCA(トッカ)ニュースレター」

(平成27年VOL.18 9月発行)
発行：鳥取県温暖化防止活動推進センター
(特定非営利活動法人 ECOフューチャーとっとり)

〒689-1111 鳥取県鳥取市若葉台北1-1-1
公立鳥取環境大学内(情報処理棟2階)
TEL/FAX:0857-52-2700 E-mail:eco.f.tottori@gmail.com
ホームページ:<http://ecof.tottori.ac.jp/>(Facebookもやっています。)
本誌は、ホームページよりダウンロードできます。
協力：鳥取環境大学「地球環境を考える会」印刷：総合印刷出版株式会社

NPO法人「ECOフューチャーとっとり」の活動を支援くださる会員を募集しています。
入会費 0円(当面の間) 年会費 正会員 3,000円 学生正会員 1,000円 賛助会員 6,000円 事務局へご連絡下さい。
鳥取県地球温暖化防止活動推進センター通信「TCCCAニュースレター」VOL.18 2015